

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

パレスチナ：ファタハの内部抗争激化の様相

米国は、現行の中東和平交渉の期間を9カ月（2014年4月末）とした。その期限は、約1月後に迫っているが、交渉の先行きはまだ不透明である。3月27日時点での直近の関心は、3月末にイスラエルがパレスチナ人囚人を予定通り釈放（通算4回目）するかである。イスラエルは、交渉が進展すれば囚人を釈放するとしている。パレスチナ側は、釈放がなければ交渉は進まないとしている。この状況を打開するために米国のケリー国務長官は、26日、訪問先の欧州からヨルダンを訪問してアッバース大統領と約4時間会談した。

アッバース大統領とムハンマド・ダハラーンの抗争

中東和平交渉が大きな山場を迎えるかもしれない状況の中、アッバース大統領が議長であるファタハの内部抗争が活発化しつつある。3月10日、ファタハ革命評議会で演説したアッバース大統領は、2011年にファタハ指導部から追放された元中央委員会メンバーのムハンマド・ダハラーンに対する激しい非難を行った。アッバース大統領は、ダハラーンがアラファート前議長殺害や6人のファタハ幹部殺害に関与していることをほのめかしたと報道されている。一方、アッバース大統領に非難されたダハラーンは、3月16日、エジプトの衛星放送と会見し、アッバース大統領に対抗する姿勢を明らかにした。

ムハンマド・ダハラーン（53歳）は、ガザ出身の政治家で、次世代の有力指導者候補の一人である。2010年後半頃からアッバース大統領との対立が報道されるようになり、2011年6月に汚職容疑などでファタハ中央委員会から追放された。同追放後、ダハラーンは湾岸諸国に居住している。海外に逃亡したダハラーンの動向が報道されるようになったのは2013年の夏以降で、2014年に入ると報道の頻度が増加している。こうした報道を整理するとダハラーンをめぐる動きは以下ようになる。2月3日のインターネットサイト・アルモニターは、ガザのハマースとムハンマド・ダハラーンの間で和解が進んでいるとし、過去数カ月、ガザではダハラーンに近いファタハ幹部らが自由に活動できるようになっているとした。（ハマースとダハラーンは、本来敵対関係にあった。2007年ガザでハマースとパレスチナ自治政府の治安部隊が衝突した。その結果、戦闘で勝利したハマースがガザを統治するようになった。この時、ハマースが攻撃対象としたのがダハラーン指揮下の治安部隊である）。ダハラーンは、2014年

1月はじめ UAE 代表団の一員としてエジプトを訪問し、スィーサー国防相らエジプト側と、UAE 代表団とは別に会談した。またハマースとダハラーンは、2013年12月にアブダビで会談し、ハマースは、自分たち以外のルートで資金がガザに流入することを認め、ダハラーンは、その資金をガザの住民支援に使い、自分の支持を増加させることで話がついた。すでにカタールなどの資金が、ダハラーン経由でレバノンの難民キャンプや西岸、ガザに入っているとされている。さらに2月6日、イスラエルのマアリブ紙は、ネタニヤフ首相がイツハク・モルホ顧問を UAE のアブダビに派遣し、ムハンマド・ダハラーンと会談させたと報道した。ダハラーンとイスラエル首相府は同報道を否定している。

次期大統領選挙をめぐる駆け引き

3月はじめには、ダハラーンがパレスチナの次期大統領選挙に出馬する意向であると報道された。英エコノミスト誌（3月22日）は、すでにアッバース大統領とダハラーンの権力抗争で血が流れているとしている。ダハラーンがパレスチナ政界に復帰する場合、彼を追放した現在のファタハ指導部との対立は避けられない。ダハラーンは自分の派閥を持ち、その中にはファタハの治安部隊隊員や政治家たちがいる。3月はじめ、アッバース大統領は、ダハラーンに近い治安部隊要員98名への給与支払いを停止させた。

アッバース大統領は、現在78歳である。次期大統領選挙で50代前半のダハラーンと戦うには年齢でハンデがある。またアッバース大統領は、次の大統領選挙には出馬しないと発言したこともある。3月20日、ロイターは、アッバース大統領が、現在イスラエルの刑務所で服役中のファタハ幹部マルワーン・バルグーティ釈放についての支援を、米国に文書で要請したと報道した。2002年にイスラエル軍に逮捕され、複数の終身刑判決を受けて服役中のバルグーティは、次世代指導者の中の有力政治家の一人である。バルグーティが、もし大統領選挙に出馬できればダハラーンに対抗できる。アッバース大統領の要請には、そうした思惑があるのかもしれない。イスラエルが、バルグーティの釈放に同意するかは疑問であるが、パレスチナとの和平を求めるなら、同人はいつか釈放しなくてはならない政治家である。

ファタハ内での指導者の世代交代は、必要なことである。他方、パレスチナ人の間には、中東和平交渉が重要な時期を迎えつつある時期に、唐突にファタハの内紛が表面化したことに対する失望もある。パレスチナでの大統領と評議会選挙が実施されるかは、PA とハマースの和解だけでなく、ファタハの内部抗争が民主的に行われるかどうかにも関係するだろう。

(中島主席研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799